

対馬グローカル大学を通じた人材育成と学びの可能性

長崎県対馬市未来環境部SDGs戦略課主任 崔春海

域学連携を活かした人材育成

長崎県対馬市は、朝鮮半島と九州本土の間に位置する国境の島です。豊かな自然環境とツシマヤマネコをはじめとする希少生物、自然に根差した人々の暮らしがあります。古来、大陸からの玄関口として重要な役割を果たしてきた島であり、それを示す遺構や伝統・風習が今も残っています。

優れた地域資源を有する一方で、他の多くの自治体と同様に、対馬市も人口急減による社会課題が山積しています。さらには国内外からの海洋漂着ごみ問題やツマアカスメバチに代表される外来生物の侵入、気候変動の影響などのグローバルリスクにも直面しています。

これらの課題解決に向け、市では二〇一三年度から「域学連携」を重要政策の一つに掲げ、大学生の短中長期インターンシップの受け入れ、連携大学との共同研究プロジェクト、学術研究の奨励や活動サポート、「対馬学フォーラム（対馬研究・

実践活動に関する成果発表会）」の開催による成果の地域還元などに取り組んできました。二〇二〇年度には国の「SDGs未来都市」の認定を受け、「サーキュラーエコノミー（循環経済）」を意識した、持続可能なしまづくりを推進しています。

さらに、これらを踏まえた上で、地球規模の視野を持ち、地域視点で行動していくグローカル人材の育成が不可欠であると考え、ESD（持続可能な開発のための教育）などにも力を入れています。「域学連携」を通じて築いてきた多分野の研究者や実践家、学生などとのつながりが、さまざまな活動を進め上の大きな原動力になっています。本稿では、その代表的な取り組みである、多様な世代・立場の人々が自らの意思で集い学び合う「対馬グローカル大学」について紹介します。

三つのプログラムから成る対馬グローカル大学

対馬グローカル大学は、大学や専門機関とのネットワーク

を活用し、市民や対馬出身者、対馬ファンなどに対して、高等教育やリカレント教育の機会を提供することで、SDGs を推進する「実践型人材」を対馬内外で広く育成することを目的としています。

連携大学の教員や地域内外での実践者など多様な講師陣を迎え、ビデオ会議アプリやチャットツールによるオンライン

対馬グローカル大学の学びの特色を示す概念図。



での学習と、現地実習などの一部オンラインを組み合わせたハイブリッド型のカリキュラムを通して提供しています。二〇二〇年九月の開講以来、対馬市民（漁師や農家、U-Iターン者、学校教員ほかさまざまな属性）をはじめ、対馬出身者やファン、学生など延べ八〇〇名以上が受講しています。じつは、初年度はコロナ禍での開講となつたため、全面的なオンライン開催を余儀なくされました。しかしながら、それがかえって島外からの多様な講師陣・受講生の参画につながり、結果的に多世代・多地域間の交流と学びの場の実現につながつたと感じています。

対馬グローカル大学のプログラムは、大きく「web講義」「SDGs実践塾」「オンラインゼミ」の三つからなります。

web講義

対馬での研究や実践の成果、各分野の学問・実践論を受講生に分かりやすく解説するもので、島内外の専門家・実務家の全面的な協力を得ながら、一時間ほどの講義を毎月一～二回程度の頻度でライブ配信しています。対馬の環境・社会・歴史文化・経済分野に関するものや離島振興論といった総論的なテーマのほか、受講生が研究・実践活動を行なう上で参考になる基礎科学や方法論に関する題材を取り上げ、これまでの講義数は一四〇以上にも達しています。

SDGs 実践塾

島内外の高校生や大学生などを対象とする実地での短期合宿プログラムです。夏季に二泊三日程度で開催し、有害鳥獣問題や耕作放棄地の再生、海ごみ回収作業といった現場体験



SDGs実践塾でのワークショップ。



SDGs実践塾で獣害対策の現場を体験する塾生たち。



オンラインゼミの様子。

と、地域の実践家による座学やワークショップを通じ、「持続可能なしまづくり」のための「SDGsマイアクションプラン」の作成に取り組みます。

このプログラムは、大学生が対馬に飛び込むきっかけとな



海ごみについて調査。オンラインゼミでは、年に1回現地実習を設けている。

「入門編」としての位置づけで、参加をきっかけにオンラインゼミの受講や、対馬での学術研究に取り組む塾生が誕生しています。また、地元の高校生にとっては、自分の故郷を見つめ直すきっかけになるとともに、普段は島にいない大学生との交流・協働が、進路を考える上で非常に貴重な体験となっています。

オンラインゼミ

九州大学や長崎大学など、対馬市と連携協定を締結している大学の教員を講師に迎え、年度単位で行なうウェブ上の勉強会です。五〇～一〇名程度の受講者で、月一回開催しています。二〇二五年度は「環境」「しまづくり」「ビジネス」の三つのゼミを開講しています。各ゼミには、高校生から大学生、社会人や定年を迎えたリタイア層まで島内外からさまざまなお受講生が集まり、それぞれの関心・テーマを持ち寄って議論・交流しながら学びを深めています。

対馬での現地実習の機会も年に一度設けており、文献やインターネットの情報だけでは知りえない対馬の魅力や課題に触ることで、より実践的な学びにつながることを期待しています。

活動にあたっては、専任講師からの指導・助言に加え、過年度の修了生がティーチング・アシスタント(TA)として現

役受講生の活動をサポートしているのも特長です。

一年間のゼミ活動を通じて、受講生は自分の取り組むテーマを少しずつ実践的な内容に練り上げていき、最終のゼミにて発表を行ないます。修了生には、市長名で修了証が授与されます。二〇二〇年度から二四年度まで、延べ一八八名がゼミを修了し、なかには複数年継続する受講者も存在しています。

人材育成の好循環を目指して

全国の離島や中山間地域においては、産業・教育・地域づくり・福祉・医療などあらゆる分野で、担い手不足が深刻化しています。上述のように、対馬グローカル大学は、地域に不足しがちな学術的・専門的な視点を補完する、多様な属性の人びとが集う「学びの場」として、対馬のことを考え、行動しようとするとする人びとの掘り起こしや仲間づくりにつなげています。

実際、これまでの受講生の中には、定年退職を機に対馬にUターンし、高等

教育に触れたいとオンラインゼミを初年度より継続して受講（二五年度で六年目）することで、地域防災や地域づくりをテーマに、大学生とともに本格的な実践研究に取り組んでいる方がいます。

また、地域の食材活用や海ごみアートを通じたソーシャルビジネスをテーマにゼミ活動に取り組んだ受講生の一人は、

【大阪・関西万博を通じた対馬の未来共創～万博の成果と未来への展望を語る～】

2025年6月に開催された大阪・関西万博ブース「オーシャン・ドーム『対馬ワールド』」での発表について、島内から参加した子どもたち、市民代表者、島外の大学院や企業関係者の皆さまに活動報告いたします。各報告をお読み、万葉をさつかけとした未来への展望について、参加者の皆さんとともに語り合います。

午後の部 13:00 ~ 16:00

○ポスター発表大会

対馬に関する研究や実践活動に取組む地域団体、高校生、大学生、研究者、企業等が集い、それぞれの成果や計画を大判のポスターにまとめて発表します。

【発表者（予定）】
対馬市立大山高等学校
長崎大
九州大
大分大
鹿児島大
東京農業大
東京農業大
対馬グローブ大学
ブルーオーシャン・イニシアチブ
株式会社セイ

主 催：対馬市
共 催：ブルーオーシャン・イニシアチブ
特別協賛：サラヤ株式会社、レンゴー株式会社

特別協賛：BLUE OCEAN INITIATIVE

いのちつなぐ SARAYA

イベント詳細 QRコード

フォーラムでは対馬ワールドの展示や映像を再現。イメージキャラクター「ヒーリー」の実物も展示します。

「対馬未来フォーラム2025」のチラシ。

その経験を生かし、二五年度の県立対馬高校商業科の授業において、地域資源を活用したビジネスプランづくりのプログラムの企画・コーディネートを担っています。

このように大学を通じて得られた学びが行動へとつながり、自らの実践と並行して次の世代の学びを支えるという、人材育成の「好循環」が生まれつつあります。

市としては、こうした修了生の取り組みに対し、継続的な伴走支援を行なつていくことも重要なだと考え、「SDGs研究奨励補助制度」を運用し、学生や市民などが取り組む研究活動を後押ししています。また、対馬のSDGsの達成に向けて取り組む個人・団体のネットワーク化や、「見える化」を目指し、「SDGsパートナーズ」登録制度を設け、修了生の登録を促進することで活動の仲間づくりやモチベーションの向上を図っています。

このほか、毎年開催している、研究者や学生、市民などが取り組む対馬に関する研究・実践活動の成果発表会「対馬学フォーラム」に際しては、修了生やオンラインゼミ受講生に同イベントでのポスター発表を呼びかけています。なお、二五年度は、対馬の社会・環境課題解決に取り組む企業の参画も新たに得ながら「対馬未来フォーラム」としてリニューアル開催する計画です。

人材育成プログラムから 未来共創プラットフォームへ

対馬グローカル大学は、開講以来、地域内外で多様な人材を育み、その中から持続可能なまづくりに向けた多くのアイデアや構想を創出していました。今後はこれらの成果を、地域内外の企業・研究機関・行政が連携しながら具体的なプロジェクトへと発展させ、社会実装につなげていく仕組みづくりが求められています。

「学びから実践へ、個の挑戦から多様な主体による共創へ」という循環を強めていくことで、対馬グローカル大学は単なる教育・人材育成プログラムにとどまらない、地域の未来を紡ぐ「共創・プラットフォーム」へと進化していくことが期待されます。多くの方が対馬の持続可能な未来づくりに参画し、その中から新たな産業や雇用、文化が芽吹いていく――。世界最先端のサステナブルアイランドの実現に向けて、対馬グローカル大学の果たす役割は、ますます重要性が増していくと考えています。■

崔 春海
(さい はるみ)

福岡県出身。大学在学時の二〇一五年に「対馬市島おこし実践塾」(SDGs実践塾の前身事業)で対馬に初来島。一八年対馬市役所入職。現在、域学連携事業および対馬グローカル大学を担当。